

ぎんれいゆ会 平成三十一年二月

冬深く行商に買ふ味噌パツク

主宰 細野恵久 福祉三期

初稽古リズムに乗れぬフラダンス

増田和子 食文一期

床上げの茶粥一椀春隣

三枝邦光 美工五期

汲む水の細りて墓地の冬ざるる

國永靖子 音文六期

源流のいつれは海へ山眠る

猿橋二三雄 福祉八期

薄化粧給ひ風花とほり過ぐ

加藤善巳 美工八期

神歌に松過ぎの身の畏まる

太田 實 国際十期

巴里からの葉書の湿り春北風

大下絹子 国際十五期

やごと抜け太き大根しばし抱く

中村建生 国際十五期

立春やガーリックトーストの朝

藤本武子 国際十五期

猪口を手にとんどを囲む村社

山下 進 国際十五期

春めくや籠から覗くフランスパン

許斐國照 食文十五期

ぶり大根亡夫に割り箸割りて置く

兼清久子 健福十七期

故里の雪載す列車くる心地

沖本死辺子 国際十七期

防犯の体験談や日向ぼこ

香春早苗 国際十七期

ひと掴み叶わずなりし年の豆

仲田慎輔 国際十七期

灰寄せの人工関節水廻るる

宮本公子 健福十七期

春暁や夢を旅する旅の夢

中村富美子 国際十七期

端正な猫の居住まひ春立てり

宮本眞貴子 国際十七期

裏道をいくつも曲り日脚伸ぶ

小栗恭子 健福十八期

越の夜は雪降る音を聞くごとし

潮江敏弘 健福十八期

春寒し苔生す寺の木乃伊みいらぶつ仏

野見山剛 健福十八期

床鳴らすタンゴのステップ春近し

大山吉春 国際十八期

寒鼻被爆ピアノの紡ぐ音

今井義和 美工二十期

朝日影氷柱が封じ込めぬたり

尾崎育久 美工二十一期

さらさらと十四夜の月冴えわたる

黒木早苗 食文二十一期

息白く足踏みしつつかを待つ

宮脇暁美 食文二十一期

孤独の生き抜き朝梅一輪

藤川敏子 国際二十二期

薄氷やひ鯉ま鯉の万華鏡

大歳敏子 健福二十二期

想うとは思いだすこと露の臺

大田直子 生環二十二期

第二百五十八回ぎんれい句会（二月八日開催）より